



梅雨に思う

会長 三 神 美 和

明けやらぬ梅雨にうつうつとした今日此頃ですが、会員の皆様にはお変わりもなく、ご活躍のおんこととおよろこび申し上げます。

あの賑々しかった高知市の総会、慌しかった参議院選挙も夢の間に過ぎまして、今更のように時の流れの早いに驚いております。

南国土佐での総会には、全国から多数の方々のご出席下さいましてまことにありがとうございました。帰京してからもいつまでも総会の盛況が、高知の思い出が楽しくよみがえり、来る日も来る日もあれこれと反芻して楽しんでおりましたが、このような思いは恐らく私一人だけではなかったと思えます。

ご出席された会員の皆様はどなたも私と同じ思い出をもたれた事と存じます。これはひとえに半年の間、高知を始め四国の会員の皆様がこの総会のた

にめ心を砕いて下さった賜物と存じます。窪支部長を先頭に一条乱れぬ結果と真心の程ただ感じ入るのみです。

ここに改めて四国の皆様に厚くお礼申し上げます。昨年の万博といい、今年の総会といい、日本女医学会の皆様のご協力には心から感謝し、感激しております。この協力の精神こそ、今後の日本女医学会の発展につながるものと存じます。日本女医学会が今後実行しようとする。

「性教育」に関する資料の収集や参考書の作成なども、会員の皆様のご協力がなければ到底なし得ないものと思えます。また一九七六年に招致を予定しております。国際女医学会の開催は、全会員のご協力ご援助が絶対必要条件であります。国際女医学会を成功させることは、エコノミックアニマルの汚名を取消す役割を演ずることになりましょう。日本のためにも日本女医学会

発展のためにも一致ご協力を切にお願い申し上げます。

私共が、心を一にして後援し応援申し上げた山本スギ先生の敗戦は、何といても私にとつて大きなショックであります。理由は色々あるにしろ、後援会長としての私の非力によるものであると思ひ反省しております。しかし、全国の会員の皆様は本当によくやして下さいました。医師会の先生方を動かし、山本先生一本にしぼって頂いた所も数多くございました。知人に患者に働きかけて日夜健闘して下さいました皆様に心からお礼申し上げます。山本先生にはただ心からお詫び申し上げますのみです。今後を期して大いに頑張つて頂きたいと希うのみです。

しかし、医系の候補者全員が落選した事に対し、私共も深く反省しなければならぬと思ひます。このなかで地方区の川野辺先生のみが当選されたことは一条の光明を見る思いであります。

以前から静岡県で婦人会々長として婦人会をリードしたその実行力が、その人が与つて力あつたものと思ひますが、女医の代表として恥ずかしくないので、本方にうれしうございます。一地方の女性代表でなく、全国の女性代表として、また全国の女医の代表として立派にお役目を果たして頂きたいと希っております。

来年九月に第十三回国際女医学会がパリで開催されます。本誌に記載して

ありますように来年はミュンヘンオリンピックの年で丁度時期が重なり、ホテルなどの関係で参加申込みは成べく早目にして頂きたいと存じます。スケジュールも大変なそうであり、学会そのものも充実しておりますので、何卒多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。特に小野先生が、国際女

第十六回日本女医学会評議員会

日時 昭和四十六年五月十六日午前十一時
場所 高知市鷹匠町 三翠園ホテル 桜の間

司会 森 千鶴

一、開会の辞 森 千鶴

通知発送 一六六名
出席 五四名

二、会長挨拶

第十六回総会を高知で行うことになり、大勢の会員の出席を得る事が出来たのは、高知県を始め、四国の先生方の並々ならぬご協力のたまものと、心から感謝申し上げます。空港のアーチ、新聞PR等も充分行き届いていて、この会を益々盛にして下さっている事を嬉しく思ふ。

本日は後に総会もあり、時間も一時間と限られてるので、ご挨拶は総会でゆっくり申し上げる事にしてこれから決算を見て頂き度い
三、四十五年度庶務報告 柳瀬理事
四、四十五年度事業報告 //
五、議長選出。「会長一任」の声に全

医会長候補者にあげられております。この榮譽を称えるため、日本女医学会の力を發揮するために奮つてご出席下さい。私は今この頃の天候のような晴れぬ心ではありませんが、来るべき晴天を期待して大いに頑張りたいと思ひます。皆様のご鞭達をお願い申し上げます。

員賛成 静岡県 仁瓶礼子氏就任
挨拶あり。

六 議事
①昭和四十五年度収支決算報告丸山理事 監事 佐藤イクヨ氏 証言
全員異議なし

②昭和四十六年度事業計画案大原理事
③昭和四十六年度収支算案丸山理事 質疑応答
a 山梨県 小林梅子氏
「くり入れ金は どこから？」四十

五年度の剰余金より
b 大阪 大原一枝氏
「吉岡弥生賞に於ける楯の分の予算をとらなくてもいいか？」「原板があるので本年は要らない」

④国際女医学会誘致について
「来年パリでの国際女医学会で、会長の選挙が行われる。それにわが、小野春生氏が立候補されるよう支援し、一九七六年度の国際女医学会々議を、日本

で開催するように陣容を整えたい。」との三神会長の挨拶の後、及川氏より小野氏への「覚悟ありや?」の質問に対し「覚悟充分」の旨のご答弁があった。一同小野氏を支援する事に意見一致す。

⑤次期開催地について
会員が廻っていて、協力の得られる所と云う見地からすでに開催された場所を考慮し、ここで中央部の静岡はどうだろうかとの三神会長のお言葉により全員賛成し、静岡県支部長仁瓶礼子氏の承諾の挨拶あり、次期開催地を静岡と決定す。

七 閉会の挨拶
森 理事

△評議員会出席者
三神美和 小俣喜久子 川那部喜美子 山崎倫子 大原一枝 小野春生 久保田くら 中川富士 丸山美美 森千鶴 柳瀬路子 阿部秀世 綾仁伸子 荒川あや 上田 葉 佐藤イクヨ 佐野アヤ子 鈴木文子 戸田静子 長池博子 松岡宏子 真鍋昌子 森川みどり 山口三重 山本 杉 佐藤千代子 添田百枝 中村酉子 藤井僑子 三辺幸子 及川富美子 関口喜久子 中条みよ 平山浪江 村野喜代 岸 直枝 滝沢テル(代理 渡部八千世) 延島秀子 清水友代(代理 小林梅子) 仁瓶礼子 北川満子 卜部美津子 波田幸子 高辻マサエ 藤枝千枝 窪 敦子 赤坂サチミ 若江百恵 山田都美子 (代理 渡辺優子) 佐藤カネ 小田幸子 星野礼子 松波寿美 藤田小冬

第十六回日本女医学会定時総会

高知支部 玉 木 三和子

日時 昭和四十六年五月十六日(日)

午後一時

場所 高知市鷹匠町三翠園ホテル

一階ホール

会員総数 四三二名

出席会員数 三七五名

委任状 一三〇六名

司会者 柳瀬路子

以上により本総会が成立する旨を宣す。

一 開会の辞 小俣喜久子

本日は皆様ご多忙の中を、その上交通会社のストなどもありましたのに、全国各地から集まっていたいただき、誠にありがとうございます。日本女医学会も毎年盛大になって行くことは、本日に喜ばしい。また、地元高知県および四国全土の会員の方々の今回のご努力に心から感謝する。

総会を和やかに、滞りなく終了させたいので、会員各位のご協力ご支援を願う。旨の挨拶あり。

二 物故会員に対する黙禱

左の十六名

児玉高枝 深川久子 深井寿幾 阿野 一、萩原はつ、野村敏子、園田茂子、神川 竹、藤森ナミ、中村吟子、花岡すみれ、松野芳子、本間正子、多賀ミチ子、若林ヨウ、大津重子

三 会長挨拶

文字通り北から南から、日本の各地から、ご出席下さった三百有余人の会員を迎えて、ここに第百回日本女医学会が開催された事は、誠に喜ばしい事で、ご同慶に堪えない。

これは偏に昨年末、練りに練った計画により、この大会の準備をして下さった、高知県の皆様のご努力によるものと深く感謝申し上げる。

特に産産部長をはじめ、地元高知の皆様には、その準備のために広く四国の他県に呼びかけ、四国女医学会を結成されて、その準備に取り組まれ、細心のご配慮により、交通、宿泊、観光の面に至るまで、至れり尽せりのご配慮をして頂いている。

飛行場に来てみると既に、日本女医学会の立看板が出ており、日本女医学会の幹部として本心に暖まる思いがした。ご熱意を深く深く感謝申し上げます。主催者側のご意志に込め、沢山の会員の出席が、この会を盛大に導いたものと思う。会員の皆が日本女医学会を一層認識下さり、日本女医学会が一丸となって行くという日本女医学会の本来の意味をご理解下さり実現に導いて下さったものと思う。

万博によって、同じ目的に向って努力し、同じ宿で語らい乍ら相互理解を

国際女医学会について

第十三回国際女医学会総会は、昭和四十七年九月三日より七日までの五日間、パリにおいて開催されることになりました。学術講演のテーマは「Toxoplasmosis で我が国から、日本における Toxoplasmosis について」と題して東京女子医大から発表される予定になっており演者は未定です。

Toxoplasmosis 研究内容は次のとおり

1 後天的 Toxoplasmosis

2 先天的 Toxoplasmosis

3 Toxoplasmosis の疫学

4 Toxoplasmosis の病理

5 妊娠時の Toxoplasmosis

6 Toxoplasmosis の検査事項

論文の審査および採決は、国際女医学会主催会議で昭和四十六年九月に決定されます。英文の抄録ならびに口演全文の提出期限は、昭和四十七年二月一日まで

九月七日に学術会議が終り、八日には Paris への国際女医学会の小旅行があり、古いお城やシャム・ペインの製造所を見学します。

国際女医学会々議後の親睦旅行として、次のような原案を渉外部で一応計画したが、なお皆さんの意向により変更することを考えていますので、ご希望をお申し出下さい。また

度々ヨーロッパに行かれた方々のご希望で、アフリカコースも加えてみました。

(1) Aコース(ヨーロッパ) 十八日間 期日一八月二十七日一九月十三日

総費用四十七万七千円

東京一モスクワ一ロンドン一ローマ一パリ一ジュネーブ一ローマ一ペンハーゲン一東京

(2) Bコース ヨロッパ一東アフリカ一サハラ一、二日間コース

八月二十七日一九月十六日

総費用一六十四万八千円

東京一モスクワ一ロンドン一ローマ一パリ一ジュネーブ一ナイロビー一ナイエリーナクルーアンボセリーナイロビー一東京

申込締切りは昭和四十六年九月末日

たまたま来年はミュンヘンでオリピックが開かれる関係上、ヨーロッパのホテル事情が混雑すると思われるので参加申し込みはなるべく早目に本部宛お届け願います。

註 国際女医学会費及びそれに伴う諸経費は上記料金に含まれておりません。

国際連絡書記 佐野アヤ子

深めた。また国際女医学会への出席がより親密さを増した。かように会を重ねる度に出身校を離れ年令を越えて日本女医の集りとして一本化して行く事が本来の日本女医学会の姿であり、これが実現に向いつつあると云う事は誠に喜ばしい事である。本場にこれが早い時期にこうして実現出来た事を深く感謝申し上げる。

日本女医学会も今年で社団法人として第二回を迎えた。昨年は役員改選で、私が会長に再選されたが、今後の日本女医学会の発展を思う時、その重責をひしひしと感じるのである。

浅学非才を顧みず、あえてこの責任の位置に就いたのは、本会には、昨年選ばれた。すぐれた理事の役員がおられるし、また、本会の意を理解される多数の会員がおられるからである。

新しい理事は、理事会を重ねる度にその真価を発揮され従来に見られない熱心な会議が繰り展げられている。

また、機構も一新され、新しく事業部を設けて大いにやると云う気がまを示している。この理事会の熱意を見る時に私は益々力強さを感じて何とかしてお役に立ちたいと勇気を奮い起こしている。

会員の皆様も何卒よろしくお願い致します。今後の日本女医学会の仕事として何をなすべきかという事が大きな課題である。

女であり 医者である私共が、最も適当な、しかも可能な仕事、皆の共通な一つの目的に向って行くにはどうい

う問題がいいか、ということを一緒に考えていきたい。会員の皆様は、各立派な仕事を持ち、各地区においては、立派な指導者として活躍している。私共は社会の指導的立場にある知性ある女性としての役目を果さなければならぬと思う。

そこで、理事会では後に述べる所の子を持つ親の悩みであり、また近頃の世相からして性教育、純潔教育の問題にとり組む事に決め、その具体策については、今後の問題がいろいろあるが会員の皆様と共にどういう風に進んで行くかを考えたい。

本日一番大切な事は、社団法人として昨年度の会計決算、四十六年度予算決定であるので、この席でよろしくご審議願いたい。

ただ一応会計の帖尻が芳しくないが、これからこの会が発展するために資金が必要であるという事を痛感している。

会費の点は勿論、資金を得るためには、かねて進めている年金について一つの資金源として、より一層の倍加運動を進めて行く事に協力してほしい。

それから、本会の大きな仕事の一つである吉岡弥生賞は、年々推薦される方々が多くなって本年は六件に及んだ。審査員が慎重協議を重ねて、四十六年度は、社会的に精薄児の施設、教育という事に努力されている岸直枝、

川田仁子氏が選ばれた。また、学術方面では未熟児の研究と、未熟児センター設立のために、非

常な努力をされた野呂幸枝氏が決定された。また一人僻地診療に長い間貢献された植松喜久江氏が僻地診療功労賞を受賞された。

一人一人皆すぐれた方達であり、本会のためにも名誉なことである。

また、本会の今年の大い問題として国政に参加されるお二人を、どうしても国会に送り出さなければならぬ。これは私共の代表として、私共がしなければならぬ仕事であると思

う。今迄、結束された大きい働きをした万博のあの力を発揮して、皆様のご協力を切にお願ひ致したい。と述べられた。

四 議長選出
会長一任の声あり 全員賛成
議長 窪 敦子

五、議事録署名人選出
司会者に一任し会長に指名を願う
日野 千代子 藤尾良枝

六 庶務報告および
四十五年度事業報告 森 千鶴
七 国際女医学会報告 佐野アヤ子

昨年は万博および会議の帰りなどで国際女医学会員が多数来日したが本年度は少い
第十三回国際女医学会総会は昭和四十七年九月三日〜七日迄、パリで開催される。

学術大会のテーマは「トキソプラスモージス」で東京女子医大から「日本におけるトキソプラスモージスについて」を発表の予定、パリの次はブラジ

ル、その次は東京が候補地となっている。来年、パリでの会に多数出席されるようにと、コースの種類および旅費の説明などあり。

八 議事
昭和四十五年度決算報告 丸山理事
四十五年度欠損金三三二、二九九円を四十四年度繰越金で賄わしてほしいとの提案に一同異議なし。

監事 佐藤イクトヨ氏証言、一同承認
質問 a 大川嬢姫氏
校債利息の予算額と決算額との差について、およびプリントに各項目の予算額と決算額の差を数字ではっきり出しておいてほしい。

b 延島秀子氏
決算書の交際費が0の理由、および係の先生方が自腹を切らず使われたらどうか

2 昭和四十六年度事業計画 大原理事
a 奨学事業
吉岡弥生賞 川田仁子
社会に貢献した人 岸 直枝

医学に貢献した人 野呂幸枝
奨学金
昭和四十七年三月迄に調査をして女子医学生首席卒業者に奨学金を与える。それにより若い世代に日本女医学会を認識して貰うという事のつながりにもなりはしないだろうか

(アメリカの女医学会雑誌の記事を参考とす。)

b 助成事業

○山梨県 植松喜久江―僻地診療功労賞

○公衆衛生、社会福祉への助成として地方よりの情報も期待する
○各支部会費完納人員に対し一人百円づつ還付し支部費として使

用して貰う。
c 協力事業
○各支部が日本女医学会としての事業の時に申し出る。

○性教育 純潔教育については既刊の刊行物の収集を行ないまづ勉強をしていく、などの説明があった。

3 昭和四十六年度収支予算案丸山理事
年金加入のすすめと会員納入一〇〇%の要請あり。

4 国際女医学会議誘致について
○三神会長の説明
○山崎倫子氏(渉外部)より予算案その他の説明あり
○国際女医学会々長候補 小野春生氏の挨拶あり
全員で立候補支援決定

質問 大川嬢姫氏
「資金源について執行部は充分吟味されたか？」答 山崎倫子氏「会員一人四万円、かりに七百人出席すれば、種々の費用を節約して何とかできると思われる。」

及川富美子氏起立して「外国へ出席すれば沢山の費用がかかる事だし、居ながら国際女医学会の雰囲気を感じて来るのだから、小野先生に是非会長になって頂き、日本で国際女医学会を開

催できるより協力しようではないか」と会員への呼びかけがあった。

5 性教育について 阿部 理事

資料収集の要請

6 次期開催地

静岡県に決定 支部長仁瓶氏より

もお引受けするとの挨拶あり。

議事終了

窪議長挨拶の後降壇されようとした時、高知県寺尾澄恵氏より動議あり、今回の大会につき、高知県および高知市をはじめ高知県医師会、多数の製薬会社その他の企業などから協力寄付金を受けた。更に足摺観光コースのグリーン車の中止による会費の過剰徴集の差額など、会計の収支決算の上余剰金があれば、日本女医学会を通して社会事業団へいくばくたりとも寄付をさせていただきます。その旨の提案に対し余剰金があれば、当然高知県の事務費にといわれる先生もおられたが、高知県側はあくまでも寄付させて頂くということで全員諒承す。

九、第三回吉岡弥生賞および

僻地診療功労賞受賞式

岸 直枝氏、川田仁子氏、野呂幸枝氏、植松喜久江氏

十、山本杉氏ご挨拶

政治家としての立場から健保問題を中心にした医療問題についてのご意見と抱負とを述べられた。五分間休憩！(会場内へジュース高知名産のおまん頭などのサービスあり)

十一、講演 野中 婉のごこと

高知県郷土史家

橋詰 延寿氏

十二、閉会の辞 副会長川那部喜美子 全国各地より沢山の先生方のご協力と地元高知地の会員の方々のご尽力により盛大且つ和やかに、有

第十六回日本女医学会高知総会を迎えて

昭和四十五年四月二十六日、高知県の女医学会理事は緊急理事会に召集され日本女医学会総会を広島、大阪に次で、高知にと白羽の矢が立てられていたが、高知で開催する事を引き受けるかどうかという話から始まりました。

種々検討した結果、引き受ける事を決定したのが、五月十日でした。決定はしたものの、一年位前は、会員一同大変な事とは解っていても、まあ何とかなるだろうと思ひ、それが集まりを重ねて来るに従って大仕事だという実感が、ひしひしと迫って来ました。大会を引き受けた以上は、コジャンと(高知弁で立派に)やりましょうという合言葉で、真剣にいろいろの事に取組んで来ました。観光の面では四国全体に跨るので、高知県の提案で四国女医学会を

意義な総会を無事に終えることが出来た事を、皆様と共に心から嬉しく思う。これからも、日本女医学会の発展のため、益々一致協力して進んだ行こう。という旨の挨拶で大会が閉じられた。

大会出席原簿から、観光コース別名簿、アイウエオ順名簿、索引、宿泊名簿、フライト名簿と何回も何回も書き入れ、変更があれば追加訂正し、それを皆で間違いのないようにと確認合いました。連日睡眠時間三時間という先生も沢山あります。電話連絡延々十二時間という先生もあります。シンボルマークも作り、赤いデニムのベストもありましたが、赤いのを着ているのは高知県女医学会とはつきり判り、他県の先生方のために働けるという趣旨に全員賛同して作りました。

又、高知県、高知市並に県、市医師会よりの補助、応援を受け、更に製薬会社その他各方面より多大の協力援助を受けました。会員各自も拠金して少しでも会の運営に役立つように協力しました。

しかし、最も苦勞し難儀した割合に酬われなかったのは、旅館の部屋割りです。希望があれば割合簡単ですが、その無い時の組み合わせには本当に困りました。学校別、地区別、年令別と振り割りは多方面にわたりました。前もって名札の裏にコース別、旅館名、部屋ナンバーを書いてありました。それが無視して、当日夜になってゴネタ先生(ほんの一部ですが)には、全く泣かされました。仲々決まったとおりにはいかないものだという事を痛感したことです。

ポークスカウトよりも手伝の申込みを受け少しでもお世話が行き届くようにと、これも頼み、お城、日曜市内巡りに一役買って貰いました。その他、会員全員で歌を習い、踊りを習いして、高知県女医学会員八十名が一致団結して、この大変な総会を迎えたのです。

午後六時の開宴でしたが二時頃より玄関に受付を構え、出席される先生方の名札へ、お土産に差し上げるサンゴのブローチを付け、白いシヨルダールバッグを整えて、到着されるのをお待ち致しました。

自分の使用している薬の名前は度忘れしても、出席なさる先生方のご氏名は実に正確に記憶していて、姓をお聞きすればすらすらとお名前が出るという状態の私達でしたが、市内観光を済ませられた先生方が、バスでどつと見えられた時は、玄関の狭い事と受付の人員不足もあって大変混雑しご迷惑をおかけしてしまいました。

少々定刻を過ぎ会がはじめられましたが、昨年度吉岡弥生賞受賞の添田百枝先生の学術映画と高知の観光映画を見ながら、えび料理を味わって頂き、久々に顔を合わされた各県の先生方の

賑やかなざわめきが、窓の下を走る小型船のエンジン音と共に何時迄も尽きる事なく、太平洋の波の上を漂っているかのようでした。やがて九時過ぎ閉会となり、手結の保養センター海風荘に泊られる二十名余りの方々を残し、二台のバスに分乗して、高知市内の南水ホテルに到着、お疲れの先生方を予定された部屋にお送りし、一応落ち着かれた頃に、各階の全部屋を巡回確認し、新たに名簿を作製してホテル側に渡し、十二時前帰宅しました。

五月十六日(日)
この日も五月晴れの上天気で昨日同様それぞれ手分けしてあった通りに出迎え、当日の会場三翠園ホテルへご出席の先生方をご案内致しました。

十一時からの評議員会も終り、総会への会員もほぼ集まった午後一時頃、ホテルの中庭で高知の観光には欠かせない闘犬用の犬と、尾長鶏の供覧があり、全長六メートルにも及ぶ鶏の尾が青葉の中で折からのそよ風にひらひらとそよぐ有様を次々とカメラに収めておられた先生方も少なくなかったようでした。ここ三翠園ホテルは、旧山内家藩邸跡にて、当市最高の建物で、サツキの名園ですが、今年は開花が少し遅れ、チラホラ程度の淋しさで残念でした。

一時三十分、庭園に集まったの記念撮影の後、二時より総会が地方色豊かな雰囲気の中で、和やかに盛大に開かれました。

栄ある賞を受けられた四名の先生方

は特に、高知の澄み渡った青い空を印象深くご帰宅なさった事と思いが、多くの先生から、高知の素晴らしさを讃えられ、高知支部会員の労をねぎらって下さるお言葉に接して、どんなに嬉しかったかれません。

種々の提案、質問等熱心な討議に時間を少々オーバーし、やがて六時、同ホテル二階座敷大広間に於て懇親会に移りました。

高知県知事、市長、県市両医師会長、新聞社社長、各薬品問屋社長及セーラーズ等の男性を会員の間にホストとして坐って頂き、皿鉢料理による高知県挙げてのサービスを致しました。

祝詞、祝電の披露、乾杯を型の如く、その後は次々と来賓の隠し芸、遠来の会員の意気の合った踊り等。多々。高知支部は小出つ子姉が代表してくるうとはだしの奇術を披露し、やんやの喝采を受けました。

目の下二尺に余る見事な鯛の生造り一対は会場手狭のため、床の間に飾られて、ほんの一部の方に目に留ったのみで、本当に残念でした。

年代も、出身校も忘れて楽しみつつ打ち解けておしやべりし乍ら食べた飲みだりの中に懇親会も終りを知らなにかのようでした。買物に出られる予定の先生方のために市内の商店街が閉店時間を延長して待っててくれるとの事で、司会者よりおひらきの挨拶がありました。この日は全員が、この三翠園ホテルに泊る事になっていましたのでそのまま各部屋にはいり、それぞ

れの行動に移られました。各階の高知の責任者は昨日同様全室を回って宿泊者の確認をすませ、この一日を終えました。

五月十七日(月)
高知市内観光のAコース
高知県の東西両端である室戸 足摺の両岬を主にしたB、Cコース。
更に足摺岬より愛媛県道後に続くDコース。

その各組の会員が互に名残りを惜しみつつ、次期総会地静岡での再会を約し固い握手を交してバスの人となり、それぞれの目的地に向って早朝のホテルを出発しました。

各地での思い出深い観光を終え、三々五々帰って行かれる会員の方々の空港で見送り、最後に夕暮れの中で、赤いヴェストの者だけが残った時、お互いの顔を見合せて、兎にも角にも大責任を無事に果たした安堵感と、喜びと、更に深かった団結と和とを感じ、誇らしい気持ちと同時にわけもなく腫のうるむのを覚えました。

高知支部 浜崎 浜子、玉木三和子

| | |
|--------|----------|
| ルーペンダン | 実用新案特許済 |
| ペンダント型 | 金枠二千円 共 |
| クリップ型 | 金枠二千円 共 |
| | 銀枠千五百円 共 |

本会会員は正価の一割引きです
お申込みの際会員と明記して下さい。

理事会議事録

日時 46・6・26 午後3時
場所 本部会議室
出席 三神・小俣・山崎・中西・中川・森・柳瀬・久保田・丸山・守安・荒川・湯本・真鍋・鈴木・山口・上田・佐野・松岡・佐藤(千)・長池・稲葉・石田・佐藤イクヨ・添田・欠席 川那部・山本・中村・大原・白橋・小野・森川・綾仁・阿部・戸田・橋本・福永・栗原・八木

▽報告事項
○庶務報告(柳瀬)
1 物故会員 椋木マツ 島根県支部 46・1 逝去
田中しづえ 静岡県支部 46・5・3 (脳卒中)

2 隅田川ライオンズクラブより僻地診療に対し十萬円の寄付金があった。本会より感謝状を送った。丸山理事の斡旋である。
3 汎太平洋東南アジア婦人協会より昭和47年1月ニュージージーランド・オークランド市で開催される大会への出席勧誘がきている
4 日本国際連合協会より昭和46年6月30日東京で開かれる講演会の案内状がきている。
5 総会に欠席された僻地診療功労受賞者植松喜久江女史より受

領及感謝状がきている。
6 ルーペンダン登録査定料払込に関して請川特許事務所より照会状がきている。
7 万博協会衛生対策の公式記録「衛生」が送られてきた。
8 山本スギ選挙事務所の開所祝として生花を贈った。
○会計報告(中西)
昭和46年4月分5月分の会計報告があった(別紙一号)

○渉外部報告(佐野)一別紙二号
1 1967年国際女医総会開催地として立候補する旨、正式に総会本部へ通知した。
2 国際女医本部役員推薦については小野・佐野両理事に一任する事にした。
3 1972年9月3日からパリで開かれる総会について。旅行社の選定及スケジュールの立案については渉外部で検討しているが、目下A欧州18日コース(約45万) B欧州アフリカ21日コース(約65万)の二案を立てている(会議に要する費用は別)

4 尚1972年にはミンヘンオリンピックが開かれるのでホテル事情が難しくなると思われるから今年の12月15日には参加申込を締切りたい。
5 国際女医会総会に日本女医会より派遣する代表の費用については前記の費用の上載せして無い。なるべく多数の会員に参加

▽議事

- 1 僻地診療助成金について(会長) 別紙三号の如く東京女子医科大 学学友会無医村地区研究会より 僻地診療に関する1970年度 決算書と1971年度予算書が 提出された。
- 2 予算書を検討の上 別項ライオ ンズクラブよりの寄附金10万と 女医会助成金より30万を支出す る事に決定した。
- 3 汎太平洋東南アジア婦人会議に は来年は出席を見合わせる事とす る。
- 4 日本国際連合協会の講演会には 出席可能な理事が出席する。
- 5 国際女医会に関する渉外部の提 案は諒承された。日本女医会よ り派遣する者の人選は理事会に かけて決定する。旅行社の選定 は会長副会長渉外部に一任す る。
- 6 日本女医会定款細則(殊に選挙 細則)の検討を庶務で行うこと が再確認された。明確なものに したい旨会長より発言あり。
- 7 編集部より会誌に掲載する記事 は理事会を通したものにしたい 旨の発言あり
- 8 新理事会発足に伴う年金委員の

改選を行なった。
 三神会長 川那部副会長 中
 西・丸山・上田・守安・常任
 理事 佐藤・長池理事
 年金申込を勧誘するため印刷物
 を作成することになった。
 年金取扱銀行に三菱銀行を加え

吉岡弥生賞受賞に感謝して

社会福祉法人桐の実会理事長
 わたらせ養護園 園長 岸 直枝



この度私共女医として最も尊敬申し
 上げる、東京女子医大創立者である偉
 大なるご人徳豊かな吉岡弥生先生を記
 念する吉岡弥生賞を受賞致しましてま
 ことに光栄でございます。思いもかけ
 ずほんとうに夢のようでございます。
 受賞の対象となりました事業は精薄幼
 児三歳〜六歳の収容施設を独力で創設
 し学齢前の児童の養護教育を行って
 るというところでございます。

設立の目的は、幼児の教育においては
 正常児でも精薄児においても人間形成の
 最も大切な土台となる年令でございます。
 三歳〜六歳までの知恵おくれの幼
 児を収容し病気の早期発見早期治療を

年金加入を促進させる。
 8 事務員の俸給・賞与について
 9 奨学金授与について
 新卒業生に与えるか日本女医会
 員に与えるか。その資格の点な
 どなお検討する事になった。
 (庶務 森・柳瀬) 以上

行ない、併せて集団生活を通しての治
 療教育によって自分のことを自分でで
 きる心の豊かな、誰にでも愛される知
 恵おくれの子を育てることを目的とし
 て設立しました。私は、幼ない知恵おく
 れの子等のための楽園の建設を語り大
 きな夢をいだいて十数年になります。
 昔の人がいいました「心がたたねば身
 は、たたず」と、ほんとうにその通り
 でした。自分だけの力で最初は、どん
 なに小さくても、強い強い種をまくこ
 とを心にちかい昭和四十一年春に決心
 ができたのです。赤城の南面早川貯水
 池を見下す新里村奥沢の一角に建設の
 鉄が打ち込まれ私の人生にとって喜び
 と生きがいの場を作る命がけの厳肅な
 場でもございました。しかし道はけわ
 しく、苦しいものでした。同年九月二
 十六日二十六号台風で七分通りできた
 園はマツチ箱をこわした如くにメチャ
 メチャに破壊されてしまいました。自
 然の猛威にはなすすべもなく、みじめ

にこわれた園舎の前で泣けるだけ泣き
 ました。一人で道を作り橋をかけ園舎
 を作るということは、女では無理なの
 かしら。と、フット思い出した額田学
 長の言葉を。

うになつてきました。
 園の生活指導は、幼児の生活は朝目
 覚めた時から夜ねるまでがすべて「あ
 そび」である。「あそび」の中から幼
 児は学んで行く。

「物事は起るべくして起り、消え去
 るべくして消えて行く。眼前のことば
 かりにとらわれて喜んだり悲しんだり
 腹を立てたりする前に物事の前後をよ
 く考えよう」と。しかし学長の言葉を
 思い出しても泣けて泣けてしばし、ぼ
 うぜんとしてしまいました。幸い私に
 は金銭ではかえられぬ良き友がおりま
 した。気を落さずバラックでもよい建
 てましよう。知恵おくれの可愛いお子
 達のために。たとえ建物は、そまつでも
 心の温たかい安心して私達と一緒に生
 活してゆけるような園を作りませう

高知県における日本女医会総会の席
 上で三神会長より栄えある吉岡賞を頂
 戴致し、万雷の拍手の祝福を受けたあ
 の喜びと感激は一生忘れることのでき
 ない最良の日でございます。
 祈りそのものである園の従事者達の
 喜びの涙を、幼い園の子達の笑顔を思
 い浮かべ胸がキュットしめつけられ責
 任の重大さをしみじみと胸にきざみこ
 みました。

三つのことをまもりながら皆んな力を
 合せてあせらずスマイルを忘れずに一
 人一人のお子をしつかり抱きしめなが
 ら毎日をくらしてあります。母子分離
 のむづかしさにつきあたり指導主事
 (女性)を一年間アメリカに派遣、幼児
 精薄の勉強をしていただき、やっと少
 しづつ、しつかりした歩みができるよ

「この子等のために愛と光を」
 只今園舎増設中でございますので副
 賞としていただいた多額の金一封は園
 の建設基金として子供達におくりまし
 ました。温たかい楽しい勉強の場ができ、
 子供達も園も幸せです。ありがとうございます。

橋詰延寿先生のえん女の講演をきいて

久保田 くら

高知における日本女医学会総会は誠に盛會裡におわつた。地元のみなさまは、窪支部長をはじめ、揃って「誠実」のかたまりのような方々ばかり。そのご親切が身にしみ、心の底にほんのりとした暖かさがいつまでも残ることとてございましょう。

総会としての議事がすべておわり、一息いれて直ぐに、「えん女」についての講演がおこなわれた。

講師は、高知の郷土史研究家橋詰延寿先生であつた。窪支部長の、婉女が系脈をひき、丸薬をつくつた事は日本女医学会員に縁のある事であるから此の機会に造詣深い橋詰先生にご講演をお願いいたしましたというご紹介ではじまつた。

そもそも婉女とは、土佐の奉行野中兼山の息女でございます。兼山は政敵のそしりにより不幸にして奉行職を失却した。兼山の業績は土佐の民に永遠の幸をもたらすものであつた。永い戦乱に荒れ果てた土佐の山野を、儒学の精神と、兼山の幼少から積み重ねた豊富な経験に基づいての手堅い計画をもつて土地および耕地の整備、治水をおこなつた。吉野川支流森川口、宮古井堰、物部川山田堰より中井川開堀、鏡野、野市原開拓、宇津港を開築、上井川運河完成、仁淀川口八田堰、弘岡井な

ど運河疏水三十流、三十余里、堤坊、港灣、井堰水門、排水溝等息つくひまもない程に計画実行。荒れた山野は河川を中心に整備され、土佐二十四万石は実収三十万石といわれる豊饒となつた。しかし、傑出した人物兼山は、或事から幕府の不審をかい、詮議を受け、失却し、隠居の身となつて了つた。その間、三歳の長男清七が人質として江戸に連れてゆかれ兼山失却と同時に帰郷するなどの非情の事がおこな

われた。寛文三年十二月に兼山が山田の中野に死去すると、次の年寛文四年三月三日には、父の追罰として長兄清七(十六歳)・米(高木家に嫁し、一児あり離婚)次兄欽六(十五歳)三兄希四郎(八歳)弟貞四郎(生後五ヶ月)・婉(四歳)・姉寛(七歳)・妹将(三歳)・清七、希四郎、貞四郎および婉の生母池きさ子、欽六の母公文かち、姉米の母やな、姉、寛、妹将の母美濃部まつ乳母のぶの一家ごとくが宿毛に幽閉された。宿毛のその地は

両側に山のある谷間である。高い塀と竹矢来をめぐらしてある淋しい軒家であつた。番士がつき、兼山の養父玄蕃の夫人の実家安東家がこの監督に當つていた。

他人にあらうのも、かたるのも許されず、なお結婚もさせず、男子四人死んで後にはじめて赦免となつた。この間、実に四十年、幽閉二十年目に、兼山の死後に生れた人であるがその学風を尊敬する谷秦山が薬の行商をしつつ漸く宿毛に兼山一家をたづね面会を求めたが安東家は山内家に気づかつて、二十年間誰にも合わせないからとの理由である日をまわつて滞在していた谷秦山はついに文のみを安東家にあづけて帰つたという。後日、婉は谷秦山と親しい交わり、と文通とをつづけ彼を心の支えとした。

婉赦免のとき、父の旧臣井口九郎衛門はすでに七十歳をこえていたが、浅倉に、生きてかえつた野中家の残れる一同を迎えた。

一先づここに落つたが、母きさ子の断つての希みにそい、母の鏡を売り、別に我が家をつくり安履亭と名づけて移り住んだ。婉はまづしい生活をしました。その時家族は、母、婉、乳母のぶの三人であつた。藩主から七人扶持が下つたのをこたわつてもりであつたが、

井口九郎衛門が、母と乳母のための扶持であるから受ける方がいいとすすり、受けたものである。

生活のために彼女は糸脈を引き、丸薬をつくつた。そもそも、幽閉のとき、長兄清七は弟妹を傍に学問を教えた。父の偉業も長兄からかされたものである。医学を学ぶ機会のない婉が糸脈をひくことには理由がある。父兼山が江戸でかつた三冊からなる民国の「病察史」という本を幽居中によくよく読んで得た知識であるという。乳母の、

のぶが糸の張り具合などをよく心得ており、のぶの手伝いを得てむつかしいとされて糸脈をとつたという事であります。政敵の令息達が婉が糸脈をとるとき、猫の脚に糸を結び如何にえんがこれを判ずるかからかつたことがあつた。婉はそしらぬ風をして鯉節を投棄したとか「猫にかつをぶし」なら妙薬である。

えん女のつくつた丸薬は越掬丸という。生活の糧として考えたものでありましようが、薬がつくられるにおよんだ理由として橋詰先生は、朝倉の井口家から離れ、一軒の家を作り、その家に柳が一本あり、安心して履物をぬぐとの意から嫁はこの家を安履亭又は柳安亭と名づけた。安履亭の近くに老松があり、鴻の鳥が巢をかけていた。或日、けたたましく鳥が鳴くのの外に出してみると、悪童どもが卵を焼いているので婉は驚き、小銭を子供等に与えて卵を巢にもどさせた。親鳥は毎日草をくわえてきては巢の中の卵をあため

ていた。ところが一度焼かれた卵がかえつた。親鳥がくわえてきた草に効果があつたかと考えヒナの姿をうれしく眺めながら、これにヒントを得て、草から丸薬をつくる事を思いついた。乳母ののぶが薬研をまわして丸薬をつくり、旧臣伊藤益衛門部下筋のものがこれを売り歩くことになり、この薬は火傷に効果があるとされていた。

そしてこの薬の名を再び記すが越掬丸という。彼女の薬は彼女の家族の生活の糧であつた。なお鳥を助けるやさ

しい心の人でもあつた。或時、江里さんという高知の方が、娘の嫁入の心得を婉女にきいた処、致れり尽せりの心得を寄せてくれた。これがいまなお、おぼる月夜と題して残つてゐる。漢詩をよくし、歌の心得もあり、やさしく美しい人であつた。赦されて世に出た時はすでに四十才をすぎたといふのに、まるで少女のような肌を保つており、着物の袖は振袖を用い、歯をそめず、眉をたてていたという。そして、一方なかなか見識高く、厳しい処を持った人で、昼は糸脈を引き、家に閉じこもつていたが、夕方になればおこそ頭巾をかぶり、袴をはき、父の黄金つくりの「国行」の太刀をたばさみ、里の方に出歩いてた。或時、夜道に馬がとおり彼女の「かご」に道をあけるように云つたら、我は奉行野中兼山の娘であるぞ、のく、のく、なとかごやに叱りつけたとか、まことに氣丈で、氣位の高いつころをみせていたという。

母は高齢で死にやがって乳母も死に彼女は一人安履亭に住んでいたが、今日まで心の友であつた谷秦山も亡くなつて了つた。藩主から旧臣の息子との結婚をすすめられたが、自分を愚弄するものであるとしてこれをしりぞけていた。内柔外硬の人であつた。

彼女は、父自体の仕事が百年あるいは二百年の後にまで残るものであるとすれば、我々遺家族が与えられた苦労はけつして許せぬが、父の仕事の前

いと云い、暗に父の偉大さに敬服して

父兼山が隠居し、舟入川の河畔で生涯を過ごし、恠死した古槻次郎八のその家系に、現在、小児科医をされておられる古巻米恵さんがおられる。そして本総会に出席されるご希望が

したがやむをえずご欠席、皆様によりしくと橋詰先生に申された由。

etc.....

藤井 儔子

日本女医会に私が参加したのは、10年近くも前にフィリピンで開かれた国際女医会へ出席された外国のお客様が日本へ寄られたのを迎えられた席であった。それから、アメリカ滞在中は別としても長いご無沙汰であった。外から眺めてだけいた私が、今日は第十六回日本女医会総会に出席したときの感想をのべてみようというのであるから、チグハグな点もあるかもしれないことを先にお許しを願っておきたい。

つづきであるなどと噂されるとか。またことに野中家の一族は悲惨なめられたが、いま、兼山の河川は雄々と流れ、港も、みつばちも、はまぐりも、みんな兼山のもたらしたものと尊敬している。腕の糸脈も越鞠丸も人の知る処となつてゐる。

ただ、おそらくは当時の殿様という名の偉い方に慧眼がなかった事である。毎回の国際女医会へ数十名を送りこんでいる日本はアメリカについて参加人員の多い国とのこと、国際女医会が日本で開かれれば、日本からはより大勢が気味に参加できるというわけである。したがって参加費も多額に集まるであろうと考えられる。しかし、今までの会では実際の会に出席する日本人は少なく、観光に出かけてしまう人が多いという声を耳にしている。

しかし、国際女医会を日本に招致した場合には、私も会員はおそらく極めて多忙に会の運営に参加することになりましょう。そして皆さんは外国におでかけになるほどの経費は不要となりましょう。つきまして、外国にでかけられたつもりになられ、外国にゆかれた時に消費する位の額を会の為に出費して下さい、国際女医会は難なく開催されるし、必ず成功するであろう。ポラントイア精神を生かし、個人のおたのしみでなく、他人の為にも出費する心を持たれる会員が多くなれば、会の仕事その他にも一段の前進が

みられる事と思われる。なお、また国際会議が外国にあったときは、まじめに全員出席、討議に参加、それぞれの専門分野において意見の交換をはかることを基本として、科学の各分野に寄与し、親睦をはかることが本来の目的であろうかと考えられるので、目的をはげさぬ努力もいたしては如何なものでしょうか。

(その二) 私事を例にして申訳ないが、一昨年スイスのバーゼルで開かれた国際薬理学会に招待演者としてよばれたとき、主催者は、invited speaker の諸費用は原則として speaker の属する国の薬理学会が負担するようにとの意見であった。このとき、日本からの invited speaker は四人であったが、誰にも日本薬理学会からは費用が出なかつた(会としても余裕がなかつた)。学術会議からは薬理学会代表者として出席した者に対してのみ旅費が支給されたはずである。最終的に、私にはスイス薬理学会から費用が出された。そして日本からの参加者は五〇名を越えていた。

私の経験した国際学会では、いつも日本からの参加者は、アメリカについて多く、この現象は国際女医会ばかりではないようで、日本人はお金持です。ねといわれたこともある。それは今日のようにわが国が日本株式会社としてみられ、日本人がエノノミツクアニマルとよばれるようになる前のことである。ここで、いいたいことは、外国留学

の機会をつかんでも、旅費の工面の大変な研究者もいることであろう。特に若い人や、基礎医学に従事する人々は；である、その人々に少しでも援助出来るような会、また、急に、意義あることのために外国へ出掛ける際、その費用の一部援助あるいは無利子貸付けのような制度をもうけられるだけの資金をもった日本女医会に発展したいものだということである。以上は評議員会で、各大学主席卒業者に奨励金をという案が出された時に、私の頭にかんだ事柄であった。

日本女医会年金ご加入のおすすめ

- 一 加入について
(1)この制度へは誰でも加入できますか?
三十歳—七九歳の会員の方ならどなたでも加入できます。他の年金制度に加入している方も加入できます。
(2)加入後、脱退することが出来ますか?
できます。
二、掛金
(1)加入者は毎月いくら納めるのですか?
掛金は毎月三千円を一口とし、申込口数は年令により異なり、三十歳—三三歳の方は五口、三六歳—三八歳までの方は六口、三九歳—七九歳までの方は八口まで加入できます。
(2)掛金はどこへ納めるのですか?
○最寄りの安田信託銀行、富士銀

行、三菱銀行の本店または支店に普通預金口座を開設し、毎月自動的に引落して送金しますの手数がかかりません。
○郵便振替送金で送れます。ただし振替利用の場合は六ヶ月分まとめて送金することになります。
(3)掛金はいつまで掛けるのですか?
年金受給資格を取得するまで掛けます。
三十歳—五五歳の加入者六五歳迄
五六歳—六五歳の加入者、七十歳迄
六六—七九歳の加入者八十歳迄

三、給付

- (1)この制度にはどんな給付がありますか?
老令年金、遺族年金、中途脱退一時金、遺族一時金
(2)老令年金は何年間もらえますか?
十年間です。
以上簡単に年金制度をご説明いたしました詳しい資料ご希望の方は、本部に「一報下さい。お申込みは直接本部にご連絡願います。
昭和四十六年七月二十日 印刷
昭和四十六年七月二十五日 発行
編集人 森 千鶴
発行人 日本女医会
発行所 東京都新宿区京谷河田町19
日本女医会
TEL(31)〇九六八
印刷所 東京都港区白金五、四一
興業美術印刷株式会社
題字 吉岡 弥生